

須賀 恭子

(実践女大)

目的 国や地域などでは、その国や地域特有の文化が長い年月を経てひとびとによって生まれ、それを基盤として生活が営まれているのであるが、時として伝えられてきた文化の一部は生活者によって継承されないことがある。同様のことが家族についても言える。個々の家族にはそれぞれの家族特有の文化、すなわち「家族文化」があるが、それは世代をこえてすべてが継承されていくわけではない。とりわけ今日、科学技術の進歩は、生活様式の急激な変化をもたらし、家族の人間関係にもおおきな影響を与えている。そこで家族文化の精神的側面としては父母像、物質的側面としては基本的衣食住を例として、個々の家族文化の継承の程度を明らかにすることを目的として調査を行った。

方法 被験者：39家族(女子大生、その父母、その父方の祖父母、その母方の祖父母)
 調査方法：父母像—「父」と「母」の語のイメージを測定するために被験者に24対の語を提示し5段階評定をもとめた(民主的—支配的、あかるい—くらいなど)。生活様式：衣(寝間着)食(朝食)住(食卓・寝室)についての子供時代と現在の比較。

結果 父親像・母親像について家族成員間の相関関係をみると、父親と子・母親と子の間に有意のプラスの相関係数が算出された家族は38%に過ぎなかった。生活様式について全体的にみると、子と両親祖父母の関連では母とのみかプラスの相関 $r=0.35$ であった。